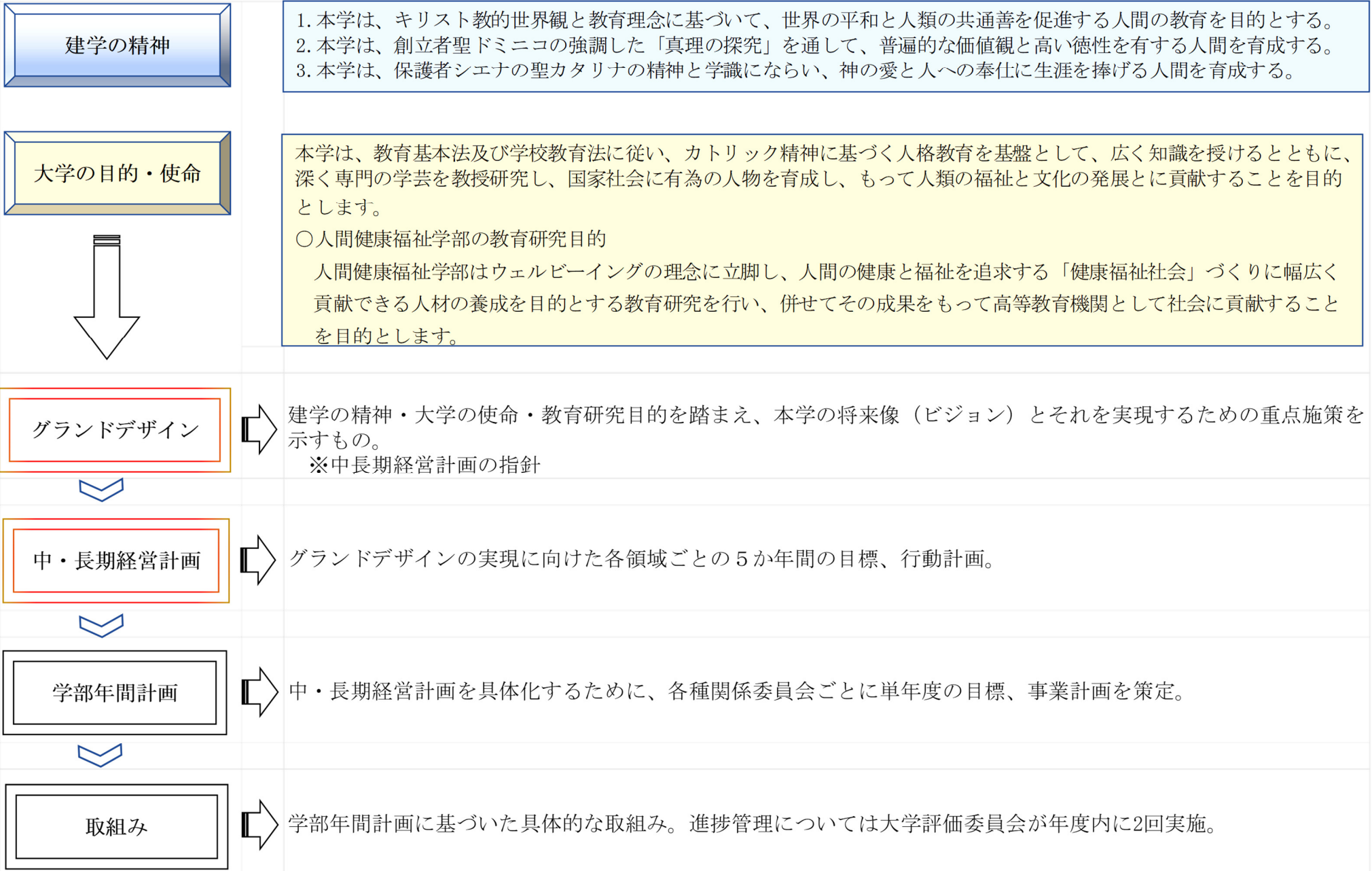


《グランドデザイン、中長期経営計画の位置づけ》



《聖カタリナ大学人間健康福祉学部の現状分析と課題》

1. 学生生活満足度調査（卒業生用）の分析から ※2019年度実施分

毎年度実施している学生生活満足度調査の総合評価は約3.2（5段階評価）である。



※学生の満足度、および充実度を向上させることが本学を勧めたいという意欲（感情）を喚起させ最終的には学生募集につながるという仮説を検証。

《結果》

- 「所属学科の満足度」と「学生生活の満足度」は「本学を勧めたい」という意欲に影響を及ぼし（意欲の喚起に寄与する）、「学生生活の充実度」は「本学を勧めたい」という意思に直接的な影響を与えないが、学生生活満足には有意な影響を与えており、そこから間接的に「本学を勧めたい」意思に影響を与えることが示された。さらに、「学科満足度」は「学生生活の満足度」、および「学生生活の充実度」にも大きな影響を与えており、「学科満足度」の向上が極めて重要であることが示唆された。
- 「所属学科の満足度」を高めるためには「授業満足度」、「資格満足度」、「施設満足度」の3項目を高めることが有効であり、それらを高めるためには満足度の向上には、社会に出た際に役立つ実践的な授業や、多様な資格の設定とそのサポート体制の充実、そして特に売店の充実を含む施設の充実が重要であることが示唆された。

↓以上のことから

※①社会で役立つ実践的で魅力的なカリキュラム・デザインの構築、②資格制度の充実、③売店の充実を中心とした施設の充実を実現することで、学生の満足度の向上につながる可能性が示された。また、これらの①②の結果は学生生活委員会が在学生を対象とした満足度調査の結果とも一致しており、学生の求める要因が明確であることを示唆している。さらに、過年度の調査結果ともほぼ同様の結果が示されており、これらの項目に重点的にリソースを配分することで満足度の向上が期待できるものと考えられる。

2. SWOT分析から ※2020年度実施

＜社会福祉学科＞

- ・国全体の「地域共生社会」の機運の高まりに対して学科教員のつながりを介して学生のサービスラーニングおよびフィールドワーク等を推進し、学科の特徴的学びと固有の修学環境を作る。
- ・少人数教育を活かし国家試験対策の充実を図る。

＜人間社会学科＞

- ・従来通り社会学と心理学を学べる学科としてその魅力をアピールして入学希望者を獲得し、学生に対しては幅広い学習内容から学生のニーズに応える学習を提供し、就職支援を通じて出口をより豊かなものにしていく。特に公認心理師カリキュラムに対応している大学は愛媛県内では本学だけであるため、積極的にPRしていく必要がある。公認心理師カリキュラムに関しては愛媛大学をはじめとして、他県の大学院とも教育連携を模索し、出口に関する環境整備を整えていく。
- ・本学科が提供する幅広い学習テーマと、コミュニケーションやデータ分析能力をはぐくむカリキュラムは現代社会において非常に有益であり、この点に焦点づけて充実した教育活動を行っていく。

＜健康スポーツ学科＞

- ・四国唯一の健康、スポーツの専門学科と県内で唯一、スポーツ・運動指導者の資格取得が可能であることを積極的にPRする。
- ・女子学生の比率を高める。これまで成績優秀者が多い。現在15～20%であるが、25%まで引き上げる（そ

のため、女子学生の部活動を活性化：女子バスケ、女子バレー)。

- ・教員採用試験において合格者を出す。
- ・運動施設、環境の整備

<看護学科>

- ・高等学校並びに受験生のみにとられず、まずは一般市民の方に社会的な認知度があげられるような広報の方法の改善が必要である。
- ・優秀な学生確保のために、大学独自の奨学金や、看護師養成を対象とした奨学金の開拓・確保が必要である。
- ・看護学科の将来的展望として、大学院(修士課程)の設置に取り組む。

<学科共通>

- ・北条キャンパスが位置する北条地区は、娯楽施設等が少ない、交通の便も悪い、等学生街としても機能していないため、学生生活の環境として魅力を感じるものが少ない。このため、本学を志望するための訴求力に欠けている。この点が改善されることにより、入学志望者の獲得につながるものとする。市街地への学科の移転が望ましいと考える。
- ・教員一人一人の仕事量が多く、教員の疲弊感が蓄積されている。研究日に授業準備や学務の処理をすることも多く、研究日としての意味をなさないことが散見される。今後業務の絶対量の低減が必要である。

3. 財務状況から

学則定員の未充足（特に社会福祉学科、看護学科）による学納金収入の不足、補助金の減額等により継続して財務状況が厳しく、赤字体質から脱却できていない。



上記の現状から窺える今後の取り組むべき課題

- ◆学生の大学生生活満足度を高めるための教育の質の向上、充実した学生支援が必要である。
- ◆地域社会や他大学との連携を図ることが必要である。
- ◆多様な方法を活用しながら積極的な情報発信が必要である。
- ◆充実した教育研究活動を行うための適切な教員配置と負担の公平さを図る必要がある。
- ◆財務状況の改善（経営基盤の安定化）にむけて学生数の確保と外部資金の獲得に精力的に取り組み、赤字退出からの脱却が必要である。
- ◆学生確保に向けた大学の環境整備

建学の精神に倣い、地域に愛され、地域とともに発展する大学
～新たなステージへの挑戦～

1. 教育の質保証への挑戦

- (1) 学修者本位の教育を目指す
- (2) 学習環境の充実を目指す
- (3) 教育の質の向上を目指す

2. 学生支援の充実への挑戦

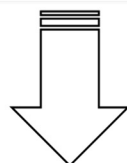
- (1) 正課外教育活動の活性化を目指す
- (2) キャリア形成の充実を目指す
- (3) リカレント教育の充実を目指す

3. 社会連携、社会貢献への挑戦

- (1) 産学官連携の推進を目指す
- (2) SDGsへの充実した取り組みを目指す
- (3) 地域住民の学習ニーズへの対応を目指す

4. 経営基盤強化への挑戦

- (1) 在学生数の定員充足を目指す
- (2) 外部資金の獲得を目指す
- (3) 効果的な事業展開を目指す



目指すゴール

- 1. 地域社会からの信頼、期待の獲得
- 2. カタリナブランドの構築
- 3. 学生満足度総合評価の向上
- 4. 安定した大学経営

建学の精神に倣い、地域に愛され、地域とともに発展する大学
～新たなステージへの挑戦～

18歳人口の減少に伴い地方の私立大学を取り巻く状況は益々厳しさが増していく。まさに今後の大学経営は、生き残りをかけた転換期になるといえる。本学は地域社会から信頼され、必要とされる大学を目指し、地域社会が抱える諸問題に真摯に向き合い、持続可能な社会を築いていくために高等教育機関として何ができるか、何をすべきかを考え、敏感に変化に対応できる大学を目指す。

2025年に学園創設100周年を迎えるにあたり、本学のこれまでの歩みを振り返り、本学が持つ強みを最大限に生かしながら、人間の健康と福祉を追求する「健康福祉社会」づくりに幅広く貢献できる人材の養成を目的とする教育研究を行い、併せてその成果をもって高等教育機関として社会に貢献することを目的に新たなステージへの挑戦を始める。

1. 教育の質保証への挑戦

本学が掲げる教育研究目的に基づき、自発的に教育の質の向上に取り組むことは、社会から信頼される大学を目指すうえで重要なテーマである。教育プログラムにおける教育研究への取り組み状況や、学修成果を定期的に分析・評価し、その結果に基づいて、改善・向上を図り、本学の教育の質を保証するための様々な取組みに挑戦する。

(1) 学修者本位の教育を目指す

中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が公表され、その中で、学修者1人ひとりの学習成果の可視化、学修者が生涯学び続けるための多様で柔軟な仕組みをつくる、学修者本位の教育への転換を促している。本学でも教員（教える側）の目線を主体とした教育から学生（学ぶ側）の目線を主体とした教育への転換を図っていく。

《重点的取組み》

- ①学修成果の可視化 ②教育内容、方法の改善 ③教育課程の改善

(2) 学習環境の充実を目指す

充実した教育を行うためにはハード・ソフト両面の環境整備が必要不可欠である。学生の学修成果や満足度調査等を活用しながら、学生の主体的な学びを促進するための環境整備を図っていく。

《重点的取組み》

- ①ICT環境の整備 ②教員組織の充実

(3) 教育の質の向上を目指す

大学においては、時代の変化や社会の要請に適切に対応した教育研究活動を行うことが求められるようになってきている。本学ではより専門性の高い教育を行っていくための環境整備を進めていく。

《重点的取組み》

- ①専門領域に応じた学部の編成 ②教員評価制度の導入 ③他大学との連携強化

3. 学生支援の充実への挑戦

学生の大学生生活の満足度には就職指導や就学指導、正課外教育の充実などが大きく影響する。本学の学生支援においては学生生活トータルにおける学生との関わりを重視し、幅広い学生の活動を支援するための取組みや環境整備に挑戦する。

(1) 正課外教育活動の活性化を目指す

正課外活動の活性化は大学の発展においても、また学生の自己形成、豊かな人間性を育むうえでも必要である。特に社会で必要とされる「リーダーシップ」「協調性」「チャレンジ精神」を成長させることを目的に積極的に正課外活動を推進していく。

《重点的取組み》

- ①指定強化クラブの充実・発展
- ②ボランティア活動の推進

(2) キャリア形成の充実を目指す

学生の社会的・職業的自立に向け、必要とされる知識、技能、能力や態度を育てる教育、支援を充実させていく。

《重点的取組み》

- ①入学前・初年次教育の充実
- ②キャリア形成関連の教育の充実
- ③資格取得のための支援強化
- ④就職支援体制の充実

(3) リカレント教育の充実を目指す

国は社会人・女性・高齢者等の多様なニーズに対応して大学や専修学校等のリカレント教育を拡大する方向を示している。学生が本学を卒業した後も学び直しや新たなスキルを身につける機会が得られ、卒後も大学とのつながりを築けるようにその体制を整備する。

《重点的取組み》

- ①産学連携による実践的なプログラム開発
- ②社会人学生の受け入れ促進を図る

3. 社会連携、社会貢献への挑戦

建学の精神、教育理念、教育研究目的をふまえ、教育研究活動の成果を広く社会に還元することを目的として、社会連携・社会貢献活動を推進する。これまでの活動を継続するとともに、地域社会が抱える課題やニーズを把握し、学生、教職員が一体となって全学体制で新たな活動にも挑戦する。

(1) 産学官連携の推進を目指す

大学の知的資源の活用は、地域活性化を図る上で重要な取組みである。各学科が有する専門性を地域の事業所、関係機関、団体と有機的につなげることで社会の発展に寄与するとともに、学生の多様な学びの機会の確保につなげていくことを目指す。

《重点的取組み》

- ①産学官連携による共同研究の促進
- ②産学官連携による各種イベントの開催

(2) SDGs への積極的な取組みを目指す

本学の「建学の精神」や「教育理念」を踏まえ、国連が2030年までの達成を目指して掲げた持続可能な開発目標(SDGs)の推進に取り組んでいく。学園内の各設置校との連携や学外の企業、団体、機関等との連携を図りながら多様な取組みを目指す。

《重点的取組み》

- ①カタリナSDGs推進チームとの連携
- ②松山市SDGs推進協議会との連携

(3) 地域の拠点としての大学開放を目指す

地域住民の多様な学習ニーズや課題に対応するため、生涯学習拠点としての機能強化を図るとともに、地域住民や各機関、団体等の学内施設・設備の利用促進を図るなど、大学の開放化を目指す。

《重点的取組み》

- ①本学独自の市民講座の開講
- ②学内施設の利用促進

4. 経営基盤強化への挑戦

大学の持続的な発展のためには、経営基盤の確立と財務体質の強化が強く求められる。18歳人口の急減という状況において財務を長期的に健全かつ安定的にすることは本学における喫緊の課題といえる。経営改善に向けた多様な取組みに挑戦する。

(1) 在学生数の定員充足を目指す

私学経営においては、入学定員は財産であり、可能な限り入学定員の増加に努めなければならない。本学の経営改善のためにはまずは学生定員を充足することが必須である。入学生のみならず退学者防止に努め、学生定員充足に向けた改善、取組みを目指す。

《重点的取組み》

- ①志願者、入学者の確保、拡大
- ②退学者防止のための学生満足度の向上

(2) 外部資金の獲得を目指す

財政基盤の安定を図るうえで補助金や寄付金を含めた外部資金の獲得及び財源の多様化は、大学にとって取り組むべき重要課題となっている。特に教育研究の質向上の目的も含め積極的に競争的資金の獲得を目指す。

《重点的取組み》

- ①競争的研究資金獲得へのチャレンジ
- ②寄付金の獲得
- ③同窓会との連携

(3) 不採算部門の整理を目指す

大学経営の安定を図るためには支出の抑制も図らざるを得ない。諸経費の削減や不採算部門の見直しと組織整理などが課題となる。これまで継続的に不採算となっている部門を洗い出し、必要によっては縮小、廃止を行い支出を抑えることを目指す。

《重点的取組み》

- ①スクールバス運行の見直し
- ②女子寮の運営

《グランドデザイン、中長期経営計画の位置づけ》

建学の精神

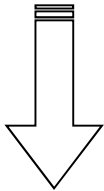
1. 本学は、キリスト教的世界観と教育理念に基づいて、世界の平和と人類の共通善を促進する人間の教育を目的とする。
2. 本学は、創立者聖ドミニコの強調した「真理の探究」を通して、普遍的な価値観と高い徳性を有する人間を育成する。
3. 本学は、保護者シエナの聖カタリナの精神と学識にならい、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

短期大学の目的・使命

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、カトリック精神に基づく人格教育を基盤として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、国家社会に有為の人物を育成し、もって人類の福祉と文化の発展とに貢献することを目的とする。

○保育学科の教育研究目的

保育学科は、子どもの健全で豊かな人格形成を援助できる人材の養成を目的とする教育研究を行い、併せてその成果をもって高等教育機関として社会に貢献することを目的とする。



グランドデザイン

⇒ 建学の精神・短期大学の使命・教育研究目的を踏まえ、本学の将来像（ビジョン）とそれを実現するための重点施策を示すもの。 ※中長期経営計画の指針



中・長期経営計画

⇒ グランドデザインの実現に向けた各領域ごとの5か年間の目標、行動計画。



大学および短期大学
年間計画

⇒ 中・長期経営計画を具体化するために、各種関係委員会ごとに単年度の目標、事業計画を策定。



取組み

⇒ 大学および短期大学年間計画に基づいた具体的な取組み。進捗管理については短期大学評価委員会が年度内に2回実施。

《聖カタリナ大学短期大学部保育学科の現状分析と課題》

1. 学生生活満足度調査（卒業生用）の分析から ※2019年度実施分

毎年度実施している学生生活満足度調査の総合評価は約 3.2（5段階評価）である。



※学生の満足度、および充実度を向上させることが本学を勧めたいという意欲（感情）を喚起させ最終的には学生募集につながるという仮説を検証。

《結果》

- 「所属学科の満足度」と「学生生活の満足度」は「本学を勧めたい」という意欲に影響を及ぼし（意欲の喚起に寄与する）、「学生生活の充実度」は「本学を勧めたい」という意思に直接的な影響を与えないが、学生生活満足には有意な影響を与えており、そこから間接的に「本学を勧めたい」意思に影響を与えることが示された。さらに、「学科満足度」は「学生生活の満足度」、および「学生生活の充実度」にも大きな影響を与えており、「学科満足度」の向上が極めて重要であることが示唆された。
- 「所属学科の満足度」を高めるためには「授業満足度」、「資格満足度」、「施設満足度」の3項目を高めることが有効であり、満足度の向上には、社会に出た際に役立つ実践的な授業や、多様な資格の設定とそのサポート体制の充実、そして特に売店の充実を含む施設の充実が重要であることが示唆された。

↓以上のことから

※①社会で役立つ実践的で魅力的なカリキュラム・デザインの構築、②資格制度の充実、③売店の充実を中心とした施設の充実を実現することで、学生の満足度の向上につながる可能性が示された。また、これらの①②の結果は学生生活委員会が在学生を対象とした満足度調査の結果とも一致しており、学生の求める要因が明確であることを示唆している。さらに、過年度の調査結果ともほぼ同様の結果が示されており、これらの項目に重点的にリソースを配分することで満足度の向上が期待できるものと考えられる。

2. SWOT分析から ※2020年度実施

<保育学科>

- ・保育の現場では保育者の需要が高いことから、2年間で質の高い保育者養成を行い社会に送り出す。その成果を高校のみならず社会にアピールし、この地域に必要とされる短大として存在する。
- ・HPや保育学科公式ブログほか、広く保育学科の中身を発信することに注力する。
- ・ピアノ練習室の環境が整っていることの周知度を高め、他大学にはない特別感を持たせられるような広報活動を行う。
- ・3年連続で定員を充足できていない現状から、2022年度入試では定員減も含め、入試制度の見直しを行うことが急務である。さらに、第3期の5年間では国の方針や県内の動向を見据えて、慎重な検討と改組に向けた準備が必要である。
- ・北条キャンパスが位置する北条地区は、娯楽施設等が少ない、交通の便も悪い等、学生街としても機能していないため、学生生活の環境として魅力を感じるものが少ない。このため、本学を志望するための訴求力に欠けている。この点が改善されることにより、入学志望者の獲得につながるものとする。市街地への学科の移転が望ましいと考える。
- ・教員の仕事量の偏りから、研究日に授業準備や学務の処理をすることも多く、研究日としての意味をなさないことが散見される。今後業務の絶対量の低減が必要である。

3. 財務状況から

学則定員の未充足による学納金収入の不足、補助金の減額等により継続して財務状況が厳しく、赤字体質から脱却できていない。



上記の現状から窺える今後の取り組むべき課題

- ◆学生の大学生生活満足度を高めるための教育の質の向上、充実した学生支援が必要である。
- ◆地域社会や他大学との連携を図ることが必要である。
- ◆多様な方法を活用しながら積極的な情報発信が必要である。
- ◆充実した教育研究活動を行うための適切な教員配置と負担の公平さを図る必要がある。
- ◆財務状況の改善（経営基盤の安定化）にむけて学生数の確保と外部資金の獲得に精力的に取り組み、赤字体質からの脱却が必要である。
- ◆学生確保に向けた大学の環境整備

建学の精神に倣い、地域に愛され、地域とともに発展する大学
～新たなステージへの挑戦～

1. 教育の質保証への挑戦

- (1) 学修者本位の教育を目指す
- (2) 学習環境の充実を目指す
- (3) 教育の質の向上を目指す

2. 学生支援の充実への挑戦

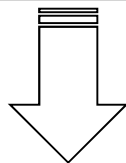
- (1) 正課外教育活動の活性化を目指す
- (2) キャリア形成の充実を目指す
- (3) リカレント教育の充実を目指す

3. 社会連携、社会貢献への挑戦

- (1) 産学官連携の推進を目指す
- (2) SDG s への充実した取り組みを目指す
- (3) 地域住民の学習ニーズへの対応を目指す

4. 経営基盤強化への挑戦

- (1) 在学学生数の定員充足を目指す
- (2) 外部資金の獲得を目指す
- (3) 効果的な事業展開を目指す



目指すゴール

- 1. 地域社会からの信頼、期待の獲得
- 2. カタリナブランドの構築
- 3. 学生満足度総合評価の向上
- 4. 安定した短期大学経営

建学の精神に倣い、地域に愛され、地域とともに発展する短期大学
～新たなステージへの挑戦～

18歳人口の減少に伴い私立短期大学を取り巻く状況は益々厳しさが増していく。まさに今後の短期大学経営は、重大な生き残りをかけた転換期になるといえる。本学は地域社会から信頼され、必要とされる短期大学を目指し、地域社会が抱える諸問題に真摯に向き合い、持続可能な社会を築いていくために高等教育機関として何ができるか、何をすべきかを考え、敏感に変化に対応できる短期大学を目指す。

2025年に学園創設100周年を迎えるにあたり、本学のこれまでの歩みを振り返り、本学が持つ強みを最大限に生かしながら、子どもの健全で豊かな人格形成を援助できる人材の養成を目的とする教育研究を行い、併せてその成果をもって高等教育機関として社会に貢献することを目的に新たなステージへの挑戦を始める。

1. 教育の質保証への挑戦

本学が掲げる教育研究目的に基づき、自発的に教育の質の向上に取り組むことは、社会から信頼される短期大学を目指すうえで重要なテーマである。教育プログラムにおける教育研究への取り組み状況や、学修成果を定期的に分析・評価し、その結果に基づいて、改善・向上を図り、本学の教育の質を保証するための様々な取り組みに挑戦する。

(1) 学修者本位の教育を目指す

中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が公表され、その中で、学修者1人ひとりの学習成果の可視化、学修者が生涯学び続けるための多様で柔軟な仕組みをつくる、学修者本位の教育への転換を促している。本学でも教員（教える側）の目線を主体とした教育から学生（学ぶ側）の目線を主体とした教育への転換を図っていく。

《重点的取組み》

- ①学修成果の可視化
- ②教育内容、方法の改善
- ③教育課程の改善

(2) 学習環境の充実を目指す

充実した教育を行うためにはハード・ソフト両面の環境整備が必要不可欠である。学生の学修成果や満足度調査等を活用しながら、学生の主体的な学びを促進するための環境整備を図っていく。

《重点的取組み》

- ① ICT環境の整備
- ②教員組織の充実

(3) 教育の質の向上を目指す

短期大学においては、時代の変化や社会の要請に適切に対応した教育研究活動を行うことが求められるようになってきている。本学ではより専門性の高い教育を行っていくための環境整備を進めていく。

《重点的取組み》

- ①教員評価制度の導入

2. 学生支援の充実への挑戦

学生生活の満足度には就職指導や就学指導、正課外教育の充実などが大きく影響する。本学の学生支援においては学生生活トータルにおける学生との関わりを重視し、幅広い学生の活動を支援するための取組みや環境整備に挑戦する。

(1) 正課外教育活動の活性化を目指す

正課外活動の活性化は大学および短期大学の発展においても、また学生の自己形成、豊かな人間性を育むうえでも必要である。特に社会で必要とされる「リーダーシップ」「協調性」「チャレンジ精神」を成長させることを目的に積極的に正課外活動を推進していく。

《重点的取組み》

- ①指定強化クラブの充実・発展
- ②ボランティア活動の推進

(2) キャリア形成の充実を目指す

学生の社会的・職業的自立に向け、必要とされる知識、技能、能力や態度を育てる教育、支援を充実させていく。

《重点的取組み》

- ①入学前教育の充実
- ②資格取得のための支援強化
- ③就職支援体制の充実

(3) リカレント教育の充実を目指す

国は社会人・女性・高齢者等の多様なニーズに対応して大学および短期大学や専修学校等のリカレント教育を拡大する方向を示している。学生が本学を卒業した後も学び直しや新たなスキルを身につける機会が得られ、卒後も大学とのつながりを築けるようにその体制を整備する。

《重点的取組み》

- ①従前のリカレントセミナーの充実を図る
- ②社会人学生の受け入れ促進を図る

3. 社会連携、社会貢献への挑戦

建学の精神、教育理念、教育研究目的をふまえ、教育研究活動の成果を広く社会に還元することを目的として、社会連携・社会貢献活動を推進する。これまでの活動を継続するとともに、地域社会が抱える課題やニーズを把握し、学生、教職員が一体となって全学体制で新たな活動にも挑戦する。

(1) 産学官連携の推進を目指す

短期大学部保育学科の知的資源の活用は、地域活性化を図る上で重要な取組みである。学科が有する専門性を地域の事業所、関係機関、団体と有機的につなげることで社会の発展に寄与するとともに、学生の多様な学びの機会の確保につなげていくことを目指す。

《重点的取組み》

- ①産学官連携による共同研究の促進
- ②産学官連携による各種イベントの開催

(2) SDGs への積極的な取組みを目指す

本学の「建学の精神」や「教育理念」を踏まえ、国連が2030年までの達成を目指して掲げた持続可能な開発目標(SDGs)の推進に取り組んでいく。学園内の各設置校との連携や学外の企業、団体、機関等との連携を図りながら多様な取組みを目指す。

《重点的取組み》

- ①カタリナ SDGs 推進チームとの連携
- ②松山市 SDGs 推進協議会との連携

(3) 地域の拠点としての大学開放を目指す

地域住民の多様な学習ニーズや課題に対応するため、生涯学習拠点としての機能強化を図るとともに、地域住民や各機関、団体等の学内施設・設備の利用促進を図るなど、大学の開放化を目指す。

《重点的取組み》

- ①本学独自の市民講座の開講
- ②学内施設の利用促進

4. 経営基盤強化への挑戦

短期大学の持続的な発展のためには、経営基盤の確立と財務体質の強化が強く求められる。18歳人口の急減という状況において財務を長期的に健全かつ安定的にすることは本学における喫緊の課題といえる。経営改善に向けた多様な取組みに挑戦する。

(1) 在学生数の定員充足を目指す

私学経営においては、入学定員は財産であり、可能な限り入学定員の増加に努めなければならない。本学の経営改善のためにはまずは学生定員を充足することが必須である。入学生のみならず退学者防止に努め、学生定員充足に向けた改善、取組みを目指す。

《重点的取組み》

- ①志願者、入学者の確保、拡大
- ②退学者防止のための学生満足度の向上

(2) 外部資金の獲得を目指す

財政基盤の安定を図るうえで補助金や寄付金を含めた外部資金の獲得及び財源の多様化は、大学にとって取り組むべき重要課題となっている。特に教育研究の質向上の目的も含め積極的に競争的資金の獲得を目指す。

《重点的取組み》

- ①競争的研究資金獲得へのチャレンジ
- ②寄付金の獲得
- ③同窓会との連携

(3) 不採算部門の整理を目指す

大学および短期大学経営の安定を図るためには支出の抑制も図らざるを得ない。諸経費の削減や不採算部門の見直しと組織整理などが課題となる。これまで継続的に不採算となっている部門を洗い出し、必要によっては縮小、廃止を行い支出を抑えることを目指す。

《重点的取組み》

- ①スクールバス運行の見直し
- ②女子寮の運営